

～ かがやく杉谷っ子のために ～

ONE TEAM

島原市立第四小学校
学校だより No.142
令和5年7月14日(金)
文責：校長 大槻浩二

積み重ねてきたこと

学力調査の結果が、4年連続で全学年・全教科とも全国・県の平均正答率を超え、年々伸びている理由として、前号にて「積み重ね」という話をしました。

結果が出た後には、課題にばかり目が向きがちですが、好結果を生みだしている要因に目を向けることも大切です。好結果を生みだしている要因として、次のようなことがあげられます。

◎ 授業改善と授業の開き合い

初任者研修や外国語を中心とした校内研修で、先生方がお互いの授業を見せ合う機会を計画的に設定したことで、授業改善につながり、授業について語り合う雰囲気ができています。GIGAスクール構想によるタブレットや電子教科書など、新しい授業スタイルにも全職員で取り組みました。

◎ 安心して学ぶ学級の風土づくり

「友だちが嫌がることを言わない、しない」の徹底に取り組んでいることで、安心して学ぶ環境ができています。授業中も間違った答えを言ってもいいという雰囲気ができています。

◎ 「四小スタンダード」の取組

学校の課題改善に取り組む「四小スタンダード」の取組によって当事者意識や主体性が育ってきました。その結果として、規範意識が高まり授業中の学びの姿としても表れています。

◎ 「一人も取り残さない」取組

コロナ禍の3年間は、感染者や濃厚接触者となったため、学校を長期欠席しなければならない児童が増えました。オンラインやハイブリッド学習にすぐに対応したことで、自宅から授業に参加し、学習の遅れを生まず、子どもや保護者の不安解消にもなりました。

◎ 情報発信による保護者の理解

コロナ禍で学校の様子を知ることができない保護者へホームページを活用した情報発信に力を入れました。学校での取組みや子どもの様子を知ってもらうことで、学校への保護者や地域の理解が生まれ、育友会とも協力体制が築けています。

◎ 育友会・保護者の協力体制

宿題忘れ0、「四小メディアルール」への取組、学級部会活動の取組、電子書籍導入への支援、家庭でのWi-Fi環境の整備、健康観察の電子化、通知文書のペーパーレス化、担任との連携など、学校の教育活動に対して、育友会を中心とした保護者の全面的なバックアップが教職員を支えています。

◎ 働き方改革の推進と理解

校務のICT化、ペーパーレス化など、様々な働き方改革への理解により、職員の健康保持、子どもへ向き合う時間の確保ができています。

宿題忘れへの取り組み

好結果の要因の一つに保護者の協力による「宿題忘れ0」があると述べました。この方針は、各学級での共通した指導事項の一つであり、全児童に課せられた課題です。家庭学習編への取り組みこそ「積み重ね」が必要です。

ですが、本校の課題である「二極化」の要因もここに 있습니다。つまり、宿題忘れが固定化しています。また、「したけど持ってくるのを忘れた」やタブレットドリルを解きもせず自動採点を行い、済ませたことにしている場合もあります。高学年でも、保護者の見取りをお願いします。

昨年度も掲載しましたが、新入生もいますので、再度「宿題は、何のためにやるか？」特集します。

なお、宿題の内容がわからず「自分一人ではできない」というのであれば、内容や方法を改善しますので担任にご相談ください。

① 学力を定着・向上させる

宿題は、授業で習ったことを反復して、自分の力で取り組んでみることで学力を定着させることができます。ベネッセ教育総合研究所による調査では、成績の下位層と上位層で平日1日あたりの平均勉強時間に約30分の差があることが明らかになっています。本校ではタブレットの活用や動画を活用した予習にも取り組んでいます。

② 物事を継続する力をつける

宿題をやる意味は、勉強面だけではありません。毎日家庭で勉強を継続する習慣をつけることで、物事を継続する力を身につけることにもつながります。何かを継続する力は社会人になっても求められる力です。毎日の宿題を通じて、一生に役立つ力を養うことが期待できます。

④ 自発的な行動力をつける

後で述べますが、「習慣化」のためには、「親の見取り」が大切です。しかし、実際に宿題に取り組むのは子ども自身です。自ら宿題に取り組む習慣をつけることで、自主的に行動する力を身につけることができます。

⑤ 学ぶ楽しみを知る

取得した知識をもって自分の力で問題を解くことで「自分でできた！」という小さな成功体験を積み重ね、学ぶことの楽しさを見出し、自信をつけることにつながります。

宿題忘れの影響

学力以外にも様々な影響が生まれます。

① 信頼を損なう

宿題は、全員に同じように課せられています。課題をきちんと果たさないことで、子どもの感情に「ずるい」といった不満が生じ、不要なトラブルになります。大人の社会でも同じですね。与えられたことを果たさない、継続できないことでは信頼を失います。

② 周りに迷惑をかける

宿題を忘れた場合、昼休みなどを活用してやり遂げさせます。そのことで、委員会や学級で与えられた仕事ができず、学級・学校全体にも影響を及ぼすことがあります。

③ 本来の昼休みの過ごし方ができない

友だちや学級全体での遊びに参加できません。課題を果たすまで、指導することで、教師にとっても貴重な昼休みを失います。

